国際研究集会派遣報告

2023年度　国際研究集会派遣会員報告書

派遣集会：European Congress of Radiology（ECR）
開催場所：Vienna, Austria
開催期間：March 1–5, 2023

ECR 2023　参加報告

派遣員　横浜拓実　小樽市立病院医療技術部放射線室

はじめに

2023年3月1〜5日に，オーストリアのウィーンで開催された欧州放射線学会（European Congress of Radiology 2023: ECR 2023）に国際研究集会派遣員として参加したので，その報告をする．

研究発表内容

私は，“Why the effect of paralysis is reversible in CSDH patients? -DTI parameters are associated with motor fiber injury-”というタイトルで，electric presentation online system（EPOS）による電子ポスター発表を行った．脳出血による麻痺の影響は可逆性と不可逆性の場合がある一方で，慢性硬膜下血腫（chronic subdural hematoma: CSDH）の患者のほとんどは麻痺が改善するという現象に注目し，DTIの定量値であるFA値を用いて錐体路の定量評価を行った．その結果，脳出血の患者はFA値が有意に下がっており，慢性硬膜下血腫の患者はFA値に有意差がみられなかった．また，慢性硬膜下血腫のmodified Rankin Scale（mRS）スコアは発症時と退院時で有意に改善した．予後良好とされるmRS 0-2スコアは慢性硬膜下血腫と脳出血においても有意に慢性硬膜下血腫のほうが高かった（フィッシャーの正確確率検定）．全患者のFA値と退院時のmRSに負の相関がみられた．つまり，麻痺の影響は錐体路でのFA値の変化を示唆しており，慢性硬膜下血腫の患者では錐体路が傷ついていなく，このことが麻痺改善に寄与しているということがわかった．

参加学会の印象

まず何よりも驚いたのが，ウィーンの街全体で皆がノーマスクであったことである．まだ日本では，COVID-19による規制がみられる中でのギャップを感じた．国際学会に挑戦するのは2回目だが，前回はCOVID-19真っ最中であったためオンライン開催となり，現地参加は今回が初めてとなった．会場に関してはさすがヨーロッパというようなカジュアルな雰囲気で，参加者の格好も自由であり，スーツの人はほとん

Photo　ECR会場オブジェの前にて

どみられなかった．会場だけではなく街にもほとんど日本人はおらず，開催期間で見かけたのはおそらく10人もいないくらいであった．発表演題は日本で開催されている内容と大きな差異はないように感じた．

学会会場であるオーストリアセンターは街の中心地から地下鉄ですぐのところにあるのでアクセス良好である．地下鉄は改札チェックがないが抜き打ちチェックがあるので，切符の種類によるが，最初に乗る際の打刻だけは忘れないようにしなければならなかった．私は1週間パスであったので打刻の必要はなく，月曜日から起算して1週間，地下鉄，トラム，バスが乗り放題であった．

また，ウィーンの気候は東京よりも少し寒い程度という情報であり，住んでいる北海道よりは暖かいだろうと思い薄着で向かったが，後悔した．朝晩はマフラーが必要なくらいの寒さであった．しかし開催期間中はすべて晴れであり，有意義に過ごせた．ウィーンは治安も良いので，国際学会に挑戦してみたい方にはおすすめであると感じた．

謝　辞

ECR 2023の参加にあたり，国際研究集会派遣会員として助成いただきました日本放射線技術学会の関係者各位に厚く御礼申し上げます．ならびに国際学会への出席を快く承諾していただいた小樽市立病院の皆様に深く感謝いたします．なお，助成金は渡航費用として使用しました．